

## 12 食肉衛生検査所

### (1)被害状況

検査所のある神戸市中央卸売市場西部市場は、建物本体に大きな損傷はなかったが、畜魂碑、ボイラーの煙突、コンクリートの塀などが倒壊した。また、電話線切断により電話は不通、ガス、水道も止まった。検査所の事務室はロッカーや書類キャビネットなどの什器が転倒し、事務机なども元の位置に止まった物はなかった。また、検査室各部屋のドアは、転倒または移動した検査機器のため開閉困難な状態だった。検査機器の被害は次のとおりだった。

- ①微生物検査室：電子上皿天秤、インキュベーターが落下破損。
- ②病理検査室：自動包埋装置、パラフィン溶融器、自動血球計数装置が落下破損。
- ③理化学検査室：電子化学天秤、マルチブレンダーミル、ロータリーエバポレーターが落下破損、窒素ガスボンベが転倒、液クロ上部が落下しパイプで宙づり状態。
- ④ガラス器具、薬品瓶が多数落下破損。

### (2)西部市場業務の停止

施設が一部損壊し、ガス、水道が止まった上、関係業者の多くが被災したために、市場業務は停止した。震災時にすでに入荷していた牛、豚は、出荷者、荷受け会社、市場が協議した結果、一部の牛は出荷者が持ち帰り、残りは他の市場に解体を依頼し、豚は大阪市中央卸売市場南港市場に、牛は兵庫県加古川食肉地方卸売市場に搬送された。また、前週までに解体された牛豚の枝肉が冷蔵庫で保管されていたが、電気は震災当日午前中に復旧し、冷蔵庫も破損を免れたので当面問題はなかった。ただ、冷却水が徐々に減少し、この確保に市場の職員が奔走した。

### (3)食肉衛生検査所の復旧

検査所の復旧は、通路の確保、危険性のある試薬類の点検と処理、転倒した什器や検査機器の修復から初め、破損したガラス器具、薬品瓶の処理を数日かけて行った。この結果、1月23日には現場検査と細菌検査などの最低限の検査機能は回復した。これと並行して検査機器の自主点検を行い、異常のある機器や自主点検の困難な機器の点検をメーカー等に依頼した。しかし、メーカー等の点検修理には相当の日数がかかり、検査機器の補修がほぼ終了したのは3月の下旬になった。

### (4)震災対策業務の応援

市場業務が停止し本来の食肉衛生検査業務がないために、検査所の復旧に当たりながら、保健所等の応援ため出務した。

ア 1月20日、21日は長田保健所、24日から29日までは灘保健所、兵庫保健所、須磨保健所に出務し、物品の運搬、各部屋の整理、避難所への医薬品等の運搬、トイレの衛生状態のチェック及び消毒の指導と実施、避難者への衛生に関するアンケート調査、救済物資の積み降ろし、来所者の案内と交通整理、トイレ洗浄用に川の水汲み等を行った。

イ 2月1日からは、衛生局の実施する公衆浴場再開支援業務に従事し、兵庫区と長田区の公衆浴場へ給水の支援を行った。主な業務は民間のタンクローリーが配水池から運搬してきた水を2階のタンクにポンプアップすることで、その他、車を横付けするための交通整理と入浴待ちの客の誘導等を水道の復旧した2月8日まで行った。

ウ 2月3日から12日まで、動物管理センターに出務し、動物管理センターの敷地内に設置された「神戸動物救護センター」との連絡や、保護収容動物のリストの作成、問い合わせ電話の対応などを行った。

#### (5)食肉衛生検査業務の再開

2月8日に水道が復旧し、9日に市場業務打ち合わせ会議が開かれ、牛30頭豚60頭を上限として解体作業を再開することが決まった。そして、13日に牛29頭豚56頭が入荷し、27日ぶりに食肉衛生検査所の業務が再開した。その後、3月1日に工業用水通水再開、3月10日にガスが復旧し、4月からは1日の検査頭数も徐々に増加して、7月の時点で牛で前年の8割程度、豚で前年の6割程度にまで回復した。

現在、隣接地に建設中の新市場は震災のため若干工事が遅れ、平成8年の夏頃に完成が予定されている。ここにできる新検査所では、今回の震災の体験を踏まえて、①専用の薬品保管庫を設置する②戸棚及び試薬棚を床、壁、柱に固定する③引違戸を増やし、開き戸には開き止めを設置する④棚板の固定と棚板には転び止めを設置する⑤検査機器はできるだけ固定し積み重ねない、などの検査機器、器具等のついて、地震等による倒壊防止策を講ずべく予定している。